

## この計画書の紹介

### 1. この計画書の目的

#### 江別の景観をみんなで「まもる」「つくる」「みちびく」ための「道しるべ」

- この計画書は、将来の江別の景観をどのようなものにするのか、それを実現させるための考え方や、市民、事業者、行政の適切な役割にふさわしい取り組みなどを明らかにするものです。
- 江別の景観の将来像の実現に向け、まちの景観を市民ぐるみで「まもる」「つくる」「みちびく」ための、いわば景観づくりの「道しるべ」と言えます。

### 2. この計画書の必要性

#### 景観づくりための方向性や考え方をみんなで共有するため

- 今までは、それぞれが思い思いに景観づくりを行ってきた結果、望まれている統一感や江別らしさに乏しい景観となっています。また、後世に伝えるべきものや改善すべきものが明確になっていない状況にあります。
- それは景観づくりのための「よりどころ」が明らかでなかったことが主な要因になっています。最近では、江別らしい景観づくりやそのための景観の規制や誘導が求められるようになっており、このようなことがきっかけとなって、その「よりどころ」を共有するためにこの「道しるべ」をつくるが必要となっています。

### 3. この計画書の役割

#### みなさんと協力して江別の景観の将来像を実現させること

- 江別の「まち」は、主に人が住んでいる建物などが建ち並ぶ「街」いわば市街地と、その周りを取り巻く水田や畑、放牧地などの農村地域をはじめ野幌原始林や石狩川などの自然で形づくられています。
- まちの景観に関しては、私たちの責務として、良いものを守り、魅力を創り出し、改善へ導くことで、より良い景観を市民共有の財産として後世に引き継いでいかなければなりません。
- その際に、主役である市民のみなさんをはじめ事業者や行政それぞれの役割にふさわしい方法で、江別の景観の将来像を実現させることがこの計画書の役割になります。

#### 4. 景観とまちを形づくる要素

- 江別のまちは、住宅地や商店街、工業団地などの市街地と、これを取り囲む農地や自然公園など、いろいろな要素から形づくられています。まちの景観は、それぞれの要素に応じて一体としての市街地景観や農村景観、自然景観など、さらにはえべつの全体景観を創り出しています。
- 私たちが景観を考えるうえでは、これらの要素とは切っても切れない関係にあることから、まちづくりの一つとしての景観づくりを進めるときには「まち全体」を対象にして考えることが必要になります。

